



## 今月の記事

愛の園で学ぶ

5月の愛の園

ユニットケアの壺

リレーエッセイ

6～7月の予定



白寿の誕生日を迎えて今後の抱負を述べるKさん。心よりお祝いたします。振舞いの「菓子撒き」が盛大に行われました。(6/2)



## 学びの場としての愛の園で

園長

武藤直二

愛の園では年間を通じて多くの実習や体験学習などが行われています。昨年度は延834人の実習生を迎えましたので、毎日2～3人が施設内で実習をしていたこととなります。

実習の内容は様々です。福祉専門職である介護福祉士や社会福祉士を志す専門学校や大学の学生たち、介護職員初任者研修に参加してヘルパーなど介護の仕事に就こうとする人たち、看護師を目指して高校課程と専攻課程で学ぶ生徒たち、さらに教会で働く牧師になるため神学校で学ぶ方々、職業体験に来る中学や高校の生徒たち、傾聴活動を通じて高齢者や障がい者に寄り添うボランティアを目指そうとする方々、半年から1年と長期に亘って社会体験に参加する教員など、それぞれの学びに応じた日程とカリキュラムによって実習や体験学習が行われていきます。

実習に参加される皆さんにとっては、入居者の皆さんや職員との出会いを通じて福祉の現場を知り実践力を身に付けると同時に、様々な



援助を必要とする人々に伝えようとする自身の気持ちを確認する機会になっていることと思います。実りのある実習が行えるようにできる限り協力したいと考えていますが、入居者や利用者の皆さんの負担にならないよう、そしてプライバシーが尊重されるよう配慮した受け入れを心がけてまいります。また、実習指導を通じて愛の園のケアがよりよいものとなるよう、私たちも共に学んでいきたいと願っています。

6月中は熊野高校から看護科・専攻科の生徒、和歌山社会福祉専門学校から介護福祉科の生徒が、7月には京都のウィリアムス神学館の皆さんが実習に来られます。入居者、利用者、ご家族の皆さんと出会うことが多くあると思いますが、どうぞよろしくお願いたします。



実習初日はご挨拶とお話から

## 5月の愛の園から あんなこと、こんなこと

春の遠足に実行委員として初めて参加しました。快晴の遠足日和に恵まれた白浜アドベンチャーワールドで、バスに乗ったままサファリパークに入り見慣れない小さな動物から大きな動物を見て、皆さん「お～！」と歓声を上げ釘付けでした。リニューアルして車イスのまま乗ることができるようになった観覧車に、スタッフの方の手伝いでスムーズに乗ることができまし

た。「初めて乗ったよ。昔はこんななかったから」と笑顔で外の景色を眺めていました。普段外

出の機会が少ない入居者の方々に一日たっぷり楽しんでいただけたと思います。7名のご家族の参加もあり、一緒に楽しく過ごされました。

(介護職員 土井咲希 5/29)



岩田幼稚園の園児たちが花の日の訪問で歌と花のプレゼントを届けてくれました。(5/20)



毎月1回の手芸サークル。現在はパッチワークの手提げ袋を作っています。(5/21)



ユニットリーダー

## ユニットケアの壺 (5) ショートステイでは 小山智恵美

ショートステイユニットでケアをしていて特に気を付けていることは自宅での生活リズムを崩さないということです。

食事の時間、起床・就寝時間は皆さん個々のペースに合わせて対応できるようになりました。排泄も座位を保てる利用者の方には、日中は職員2名で介助し定時誘導から随時誘導に移行してできるだけオムツを使用せずに過ごしていただいております。オムツを使用している方もショートステイ利用中に爛れる方は殆どないと自信を持って言えます。オムツ交換時に清拭だけではなく、できるだけ洗浄をして少しでも不快な思いをされることがないように心掛け、トイレに座る方も爛れやすい方には洗浄を行っています。汚れたパッドなどは目立たぬようトートバッグに入れて始末し、不快に感じることがないように配慮しています。

ショートステイの利用時には、個人で持参してもらっている物もありますが、ユニット全体で使用する物や少しのお菓子などはユニット費から購入しています。オヤツをユニットで作ることもあり、利用していただいている間に少しでも喜んでいただけるよう工夫しています。

まだまだユニットケアとして完璧とはいえませんが、これからも少しずつ取り組みを進めていきたいと思っております。



入居者Tさんの書が掛けてあります



筆筒を再利用したプランターで花々を育てています

## リレーエッセイ(23)「再検査に行きました」 木村しずか

介護職員

毎年事業所で受ける健康診断で、私はここ数年指摘を受けるところは決まっていたのですが、今年は初めて甲状腺が腫れていると言われ再検査をしてくるようにとのプリントをもらいました。特に心配もしていませんでしたが、ある人から「健診の時に甲状腺で引っかかって放っておいた人がしばらくして亡くなったよ。」という話を聞き、これはちょっと再検査をしておかないとまずいかも、と思いました。

というわけで、紀南病院に行ってきました。まずエコー検査を受け、そのこぶの大きさを計ってもらいました。その結果、「たぶん水のようなもので悪いものではないと思うけど、1センチ以上あるので一応その細胞を採取して検査してみましょう。」ということになり、後日その検査を受けに行きました。

注射針がグサッと喉に突き刺されて細胞を採られました。ちょっとドキドキしました。検査の結果を待っている間は結構気分はどんよりしていました。結果は、今のところ確定診断ができず経過を観察とするとのことでした。

今回のことで今までの日々の過ごし方を振り返り、摂生した生活を心がけて健康に気をつけようと思心から思いました。

次回は濱中佳津子さんをお願いします。



協力病院である紀南病院の健診車で受診します

「キリストの愛を以って  
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会  
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103  
和歌山県西牟婁郡上富田町  
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

Email ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。  
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>

## 6~7月の愛の園

- 12(木) やまびこ会
- 15(日) 日曜礼拝
- 17(火) ひまわり会
- 18(水) 手芸サークル
- 19(木) やまびこ会
- 20(金) 社協ボランティア来園
- 22(日) 日曜礼拝
- 24(火) マリア会
- 25(水) 歯科診療
- 26(木) やまびこ会
- 29(日) 日曜礼拝

- 3(木) やまびこ会
- 6(日) 日曜礼拝
- 8(火) マリア会
- 10(木) やまびこ会

## 編集者から

「ペコロスの母に会いに行く」という漫画をご存知ですか。グループホームにいる認知症のお母さんとバツイチ・ハゲチャビンの作者との可愛らしくまた切ない日々が描かれ、12万部のベストセラーになり映画化もされました。

様々な介護の姿があることや認知症の方やご家族がどんな思いでおられるのかを、かわいい絵と温かみのある長崎弁のセリフを通して知ることができましたが、ユーモアやほのぼのとしたエピソードの中にも介護の辛さや大変さが伺い知れて多くのことに気付かされます。

作者の岡野雄一さんが講演する介護施設職員の研修会が7月に大阪で行われます。直接お話を伺えることが楽しみです。(A)